

初のオンライン講義を実施して

小曾川 真 貴

はじめに

私は2019年6月10日から中京大学で司書課程の講義を担当している。一年ごとに名古屋キャンパスと豊田キャンパスを交代するのだが、去年は豊田キャンパスで「図書・図書館史」の授業を担当した。受講者は20名弱、全8回と短い期間ではあったが、そもそも大学で講義をするのが初めてであったので、試行錯誤の二カ月間であった。なお、普段は犬山市立図書館に勤務している。

今年は去年の反省を活かし、より分かりやすい授業にしようと考えていたのだが、思いもよらぬ事情でオンライン講義となった。

もともと教科書を利用しない授業であったため、比較的くわしいスライドが作ってあったのは幸いであった。しかし、対面授業で行っていた「パピルスや和紙などの現物を回覧する」「関連する本を読み上げる」「DVDを上映する」「大学図書館から和古書を借りる」などの方法は使えない。そこで、昨年よりもスライドの写真とリンクを充実させるようにした。特にリンクについては、学生がすぐに検索できるよう、固有の語句にはほぼすべてWikipediaやコトバンク、公式サイト等へのリンクを張った。これは動画や写真の著作権への配慮でもあった。他に評価する箇所がなかったからかもしれないが、アンケートでは概ね好評であった。

スライド作成と受講環境

GoogleMeetによるリアルタイム方式の授業もあったが、「図書・図書館史」の授業は基本的に講義で構成されていたこともあり「オンデマンド方

式」を選択した。具体的には、パワーポイントで作ったスライドに、1枚ずつ音声を録音した。

録音については、ノートパソコン内蔵のマイクを使用した。音量を上げるとモーター音まで録音されてしまうため、本体に毛布を掛けることで雑音を軽減した。クーラーの音も入ってしまうので、事前に読む原稿を用意し、クーラーを消した別室にて録音したが、猛暑の時期でもあり、たびたび休憩を挟んでの作業となった。後期からはピンマイクを購入したこともあり、別室や毛布を利用することなく録音することにした。なお、Twitterで「録音時にスライド1枚分の解説の音声が入った合図の音を入れると、スライドの切れ目が分かりやすい。また、1枚ずつ音声が入っている場合も、終了の合図の音があるといい。なにも合図がないと、解説が本当に終了したのかどうか判断できず、ファイルの再生が終わるまで待機していないといけない」という意見を見かけ、フリーの効果音素材(<https://on-jin.com/>)を利用して録音終了時に音を鳴らすようにしたところ、アンケートでも好評であった。ただ、聞きやすさを優先するあまり、ナレーションのような読み上げ方をしていたからか、最後のコメントで「ときどきAIのようで混乱した」という意見をもらったので、後期はもう少しフランクな話し方をするように心がけている。

読み上げ原稿については、パワーポイントの「ノート」に打ち込むことで、学生が読めるようにした(画像1, 2)。教科書を使わないため、とにかく口頭での説明が多いので、音声聞き取りにくい場合の補助に使えるようにと考えた。また、私自身聞くより読むインプットの方が楽なので、学生にも自分のやりやすい方法を選べるようにとも考えた。率直に言えばこの方法は非常に手間がかかったが、次年度の授業の改善にも役立つと考え、とにかくすべての回の準備を終えた。なにかと忙しい3・4年生が受講していたせいか「音声と文字と両方あったので、自分のペースにあわせて受講できた」というコメントが複数あった。



画像 1: PowerPoint スライド下部のノート



画像 2: スライドとノートを PDF にしたもの

「図書・図書館史」は歴史が関連する講義でもあるので、初回の授業では高校時代の選択科目（日本史、世界史等）のアンケートを取っていた。今回の名古屋キャンパスでの「図書・図書館史」オンライン講義ではゲーグルフォームを利用し、受講機器等についても質問した。回答率は全受講

者の約 70%、97 名であった。そのうち 91 名はパソコン、もしくはパソコンとスマートフォン等の併用であったが、6 名はタブレットのみあるいはスマートフォンのみという受講環境であった。

ファイルはスライドショー形式しかアップロードしていなかったが、最終テストのコメントで PDF や動画等の希望があったため、後期の授業（図書館サービス概論）では初回のアンケートに希望するファイル形式の設問を追加すると同時に、毎回の授業アンケートにも授業内容以外の質問や意見も受けつける旨を追記した。

毎回のテストと受講期限設定

前期は公共図書館も含め多くの図書館が閉館していたこと、また科目の性質上、歴史の事項や流れを掴んでももらいたかったことから、毎回 MaNaBo 上のクイズ機能を使ったテストを課すことにした（画像 3）。昨年に比べると、今年は名古屋キャンパスで 6 倍以上の人数、100 名超の受講であったため、MaNaBo の採点機能は非常にありがたかった。当初は組み合わせ問題など、さまざまな形式を試したが、最終的には流れを記述した文章の穴埋め問題に統一し、穴埋め箇所は三択とした。テストを受ける回数についても悩んだが、理解度を試すより内容を定着させることを目標とし、何度でも受けられる形式にした。ただし、問題数を大幅に増やした最終テストについては、試験と同様一度のみの回答とした。

毎回のテストでは最後の設問を「授業に関する質問や感想の自由記述（採点対象外）」とし、寄せられた質問への回答は MaNaBo の Forum で共有した（画像 4）。Forum へのコメントも呼びかけてはいたが、残念ながら MaNaBo 上での学生同士の交流はほとんど見られなかった。3、4 年生の人数の多い講義であったので、すでにできあがっている交友関係の中では、メール等で情報交換をしていたのかもしれない。また、毎回の授業では Board も設置していたが、まったくと言っていいほど書き込まれず、寄せられた質問は大半がテストの回答で、ごく一部がメールであった。受

1 関係の深い気楽同士をつないでください(左右を順番にクリックすると、段で飛ばれます)。

ローマ	羊皮紙
アレクサンドリア図書館	博物館
ペルガモン図書館	ビナケス

2 キリスト教が広まるなかで、本の形は巻子本から「」と呼ばれる冊子体になっていきました。
 西ローマ帝国滅亡後、西ヨーロッパの文化の中心は「」に移り、「」などの美しい装飾写本が作られました。
 中世後半になり社会が豊かになると、大学が誕生し、「」が生まれました。
 当時の写本はとても貴重品だったので、巻に綴じつなげた「」と呼ばれる形式になっていました。

3 グーテンベルクが印刷したのは？

☐ 四十二行聖書
☐ 一行聖書
☐ 三行聖書

- チェインドライブラリー
- ロックドライブラリー
- クローズドドライブラリー

画像 3：初期のクイズ。複数の形式を試していたが、最終的には 2 つめの穴埋め選択形式に落ち着いた

講人数が増えたからか、オンライン講義であったからかは分からないが、受けた質問の数は昨年より大幅に増加した。想像だが、対面授業時に挙手で質問するよりも心理的なハードルが低い、ひとりでじっくり考える時間がある、平常点を対面授業よりも意識する（テスト上では点数をつけないが、質問や感想を記入した場合、平常点として加点する旨は告知していた）などの理由で、質問が増えたのではないだろうか。コロナ禍でのやむを得ぬオンライン授業であったが、これはオンライン化の非常にポジティブな面だと感じている。前期の最後には、Forum での質疑応答をまとめたファイルも配布した。

帰省先での受講など今までとはまったく違う状況であること、また昨年でも就職活動等で全員が 90 分出席できた講義がほとんどなかったことから、いつでも学生が受講できるよう、受講期限は毎週設けず、すべて講義最終日までとかなり長めに設定した。全 8 回、二カ月の講義だが、今年は開始自体が遅かったこともあり、定期試験期間と重複するスケジュールであったことを考慮した受講期限であったが、これも好評であった。コメントでは就職活動や家庭の都合なども伺え、それぞれの生活にあわせて受講



画像 4：毎回 10 種前後の質問が寄せられた

できるというのは、これもまたオンライン講義のポジティブな面だと感じた。ただ、学生が授業の教材のみを視聴し、受講後のテストを受けたつもりが受けていなかった、といった事例があった。これは私がもう少し早めに受講状況を確認し、個別に確認のメールを送るべきであった。後期は年末と一月半ばに確認のメールを送信する予定である。

現在の講義

私は後期の授業も引き続きオンデマンド方式で行っている。図書館で提供するさまざまなサービスについて広く学ぶ「図書館サービス概論」という科目だ。初めて担当する科目であるが、教科書を使用しているため、前期のように厳密な読み原稿は作っていない。スライドに載せていないが音声で漏れなく伝える必要のある情報だけ、パワーポイントのノートにメモ程度に書いている。

教材の形式としては、前期の反省を踏まえ、学生が自由に利用できるよう、パワーポイント形式（編集できる状態）のファイルで配布している。また、初回のアンケートで希望のあったスライドショー形式、PDF（1 枚につきスライド 6 枚）形式、動画形式のファイルもアップロードしている。

動画形式のファイルは重く、また前期のアンケートでスライドを分割してほしいという要望もあったため、後期は動画ファイルのサイズが1ギガを超えないよう、スライドを分割してアップロードしている。ダウンロード数を見ると、それぞれ利用しやすい形式を選んで学んでいるようだ。タブレットやスマートフォンで学ぶ学生には難しいだろうが、パワーポイントの入ったパソコンを利用している学生については、スライドショーやPDFを自分で操作して作成することが可能であるので、次回オンライン講義を行う際には、私がファイルを複数用意するのではなくサポートに回り、できるだけ学生自身にパワーポイントを操作してもらいたいと考えている。パワーポイントの操作を理解することは、その後の学業や社会生活でも有用だと思うからである。

毎回の課題については、授業で取り上げた特定の図書館サービスに関して Web での調査を課し、総論など特に具体的なサービスを扱っていない回については、説明文を読んで「テクニカルサービス」「パブリックサービス」を選択するなど、クイズ形式のテストを課している。提出された Web 調査の回答については、学生の許可を得た上で、匿名および個人が分からない程度に文体を変更したものを Forum で共有している。

学生の許可というのは、具体的には、テスト内に「この○番の回答を共有したい」として共有の条件を選択するもので、たいていは「匿名」「個人を特定できない文体に変える」「他の人の回答も共有する」という条件ならば共有を許可と回答しており、今のところ「どのような場合でも共有は不可」と回答した学生はいない。

後期の終わりには、この Web での調査を元にした最終レポートを課すので、自分の調査や考えだけでなく、複数の調査結果、複数の考えを参考にすることで、レポートに活かしてもらいたいと考えて、回答の共有を決めた。また、自分の調査で見つけられなかった情報を知ること、刺激を受けたり、調査方法を見直したりといった効果があることを期待している。

ただ、この原稿を書いている時点では、回答を共有した Forum に学生

の書き込みがまだないので、できれば今後はこの回答共有の場で学生同士の交流をしてほしいと考えている。

現在、後期の目標であった「全講義の年内アップロード」が終了した。11月には講義二日前にパソコンが故障するなどのトラブルもあったが、どうにか持ち直せてほっとしている。改めてバックアップの重要性が身に沁みた。受講状況を見ると、徐々に人数が減り、他の授業で手一杯になってきている（受講期限の遅い授業を後回しにしている）様子が見て取れる。今後は回答の共有や補足コメントの追加、メールによる受講状況の確認など、サポートを手厚くしていきたい。

甚だ簡単ではあるが、以上が私の今年度のオンライン授業の実施状況である。学生には大変申し訳なかったが、なにぶん初めてのことで、すべてが手探りであった。教務課や情報センターの担当者にもたびたび世話になり、本当に感謝している。オンライン講義に関する情報はなかなか共有できていないが、本稿がその一助になれば幸いである。